

令和2年度  
第5回大野市総合教育会議  
会議録

日 時：令和3年1月26日（火）午後4時～5時5分

場 所：大野市役所 大会議室

# 大野市総合教育会議

日時:令和3年1月26日(火)

午後4時～

場所:大会議室

1 開会

2 市長あいさつ

3 協議事項

(1) 教育に関する大綱(案)について

(2) その他

大野市総合教育会議出席者名簿

	役 職	氏 名
1	市長	石 山 志 保
2	教育長	久 保 俊 岳
3	教育委員 (教育長職務代理者)	馬 道 保
4	教育委員	松 谷 由 美
5	教育委員	松 田 輝 治
6	教育委員	羽 生 た ま き

(事務局)

1	民生環境部長	坂 井 八 千 代
2	福祉こども課長	山 田 徹 夫
3	政策局長	真 田 正 幸
4	総合政策課長	加 藤 智 恵
5	教育委員会事務局長	清 水 啓 司
6	教育総務課長	横 田 晃 弘
7	学校教育審議監	千 田 佐
8	生涯学習課長	横 井 一 博
9	スポーツ振興室長	多 田 直 人
10	文化財課長	佐 々 木 伸 治
11	教育総務課企画主査	竹 田 雄 次

< 傍聴者 >

2 人

## 1 開会

【教育総務課長】ただ今から、本年度第5回の大野市総合教育会議を開会する。

## 2 市長あいさつ

【市長】お忙しい中、ご出席賜り感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症が収束しない中で感染症対策を施しながらの教育行政に大変気を使っていたいただいている。子どもたちの学業も予定していた教育課程に追い付いてきたと聞いており、感謝申し上げます。また、この度の大雪で小中学校は4日間の臨時休業となり、大変つらいところもあったが、様々な面で支えていただいていることに感謝申し上げます。学校教育だけではなく、生涯学習の推進、文化の振興、文化財の保護、スポーツ振興といった面でも細やかにご配慮いただいていることにも感謝申し上げます。

本日の議題は、「教育に関する大綱（案）について」としている。総合教育会議は、設置要綱にあるとおり、市長と教育委員会が相互の連携を密にし、地域の実情に応じた教育行政を推進するための意見調整の場として設けている。その所掌事務の一つ目がこの大綱の策定に関する協議である。現行の教育に関する大綱については、一度ご確認いただいているところであるが、来年度からの新しい大綱を作っていく必要があるので、忌憚のない意見をお願いします。

## 3 協議事項

【市長】「（1）教育に関する大綱（案）について」を議題とする。事務局の説明をお願いします。

——<総合政策課長説明>——

【市長】ご意見等があればお願いします。

【松田委員】P3（2）①に「保育士や保育教諭などの資質の向上を図り」とあるが、具体的に資質の向上を図る施策とはどういったものか。

【民生環境部長】国の指導で、保育士を確保するために保育士の処遇改善を行っている。その処遇改善加算を受ける条件として、保育士が資質向上のための研修を受講することが規定されている。大野市では障害児保育に力を入れており、昨年度からは、医療的ケア児の受け入れも行っている。他にも色々なニーズに応じた保育の提供が必要になっており、そういったニーズに応じた専門的な研修を受けていただくことや、市が研修を実施できない場合であっても、そういった知識を深めていただくことが保育士や保育教諭の資質の向上であると考えている。

【松田委員】資質の向上という言葉に語弊があるように感じる。資質とは本人がそもそも持っているものである。保育士や保育教諭は専門的な勉強をして資格を取り、必要な能力を有している人たちである。特に保育教諭は保育士と幼稚園教諭の両方の資格を取得している。そういった人たちに対して、資質の向上というの

は上から目線のように感じる。例えば、能力の向上や意欲の向上という表現の方が適当だと思う。

【民生環境部長】 児童福祉施策の一般的な言葉として、保育士の資質向上という言葉を使っているが、松田委員のように感じるということも分かる。また、「資質の向上を図り、質の高い保育・幼児教育を提供する」というように読めてしまうと、色々な要素を組み合わせて質の高い保育・幼児教育を提供するという本来の意図が誤解される恐れもあるので、表現方法を検討したい。

【松田委員】 P 3 (2) ②に「子育てにかかる経済的な負担を軽減する」とあるが、経済的なことだけではなく、心の負担軽減が保護者にとって大事な場合もある。

【民生環境部長】 昨年度、策定した第2期大野市子ども・子育て支援事業計画においては、きめ細かな切れ目のない相談支援や、保護者に寄り添うといったということを大事にしている。教育に関する大綱を改めて見ると、経済的支援だけと受け取られるように思うので、ご意見を踏まえて表現を検討したい。

【市長】 文章の組み立てに問題があるのかもしれない。松田委員の意見はもっともだと思う。私の目から保育の現場を見ると、保育所や認定こども園の施設や設備は充実してきていると思う。併せて保育の質の面で、今以上のものにしたいという思いで書いていると思うので、修正ができるのであれば、そのような思いを汲み取っていけるとよいと思う。

子育ての負担軽減については、例えば、保護者のニーズに沿ったサービスの充実を例にとると、子育ての段階でも色々な段階があり、赤ちゃんが産まれたばかりの母親に対しては、今年度から「産後ママの家事お手伝い事業」として、赤ちゃんを預けて少し自分の時間を持ってもらうとか、子育て支援センターで土曜日に開館時間を設けて相談体制を充実するといった取り組みを実施している。心の面の負担軽減については、「子育て情報の発信など」という部分に盛り込まれているように思う。そういったことが表現としてうまく伝わるとよい。

【松田委員】 そういったことが読み取れるような文章にしてもらいたい。

【馬道委員】 P 3 (3) に「サポートを必要とする子どもと家庭を支援します」とあるが、不登校児童生徒が対象として記載されていないので、不登校児童生徒も記載するとよいと思う。ただ、P 4 (1) ④に「不登校への対策を充実する」という記載があるので、そこでカバーしているということであれば、P 3 には記載しなくてもいいという気もする。P 4 (1) ③に「タブレット端末などのICT機器を効果的に活用します」とあるので、不登校の子どもたちにもタブレット端末を使ってオンライン授業を実施するとか、教材を提供するといったことができると思う。最近、各家庭のWi-Fi環境に関するアンケート調査を行ったと思うが、不登校児童生徒の家庭にパソコン等のICT機器がない場合は、タブレット端末を貸し出して家庭でも学習できるようになるとよいと思う。

次に、P 4 (1) ②に「確かな学力を身につけさせる」とある。大野市では昨年から魅力ある学校づくりを進めており、その一環として小学校で新たな学力調査を実施している。子ども自身は自分の学力が足りない部分を把握でき、教員もどういった点に力を入れて指導すべきか確認できる。学校全体の指導力向上にもつながり、とてもよい取り組みだと思う。半面、学力以外の分野、例えばスポーツや音楽、美術といった分野で力を発揮する児童生徒もいる。そういった子どもたちが興味、関心を持てる取り組みもあるとよいと思う。

次に、P 6 のスポーツの分野について、目指す姿が「市民が、それぞれのライフステージでスポーツを楽しみ、健康や競技力が増進し、豊かで充実した生活を送るまち」となっているが、その下の(1)から(3)の項目を見ると、健康に関する項目が抜けているように思う。

【教育長】教育委員会としては、教育に関する大綱の項目から、どういう風に教育方針を作っていくかを確認していかななくてはいけない。あくまでも教育の大綱であり、基本的なことを示してあるものなので、文言を一つひとつ変えるとか加えるとかいうよりも、その文言をどう広げ、深めていくかという点で意見交換ができるとよいと思う。

【市長】市の最上位計画である第六次大野市総合計画から教育に関する部分を抜き出しているので、大きな方向性として捉えることができればよいと考えている。ご意見はご意見としてお聞きし、状況に関するご質問や大綱の中身に関する説明については補完していきたい。

【教育総務課長】ICT機器の効果的な活用については、不登校の児童生徒に対してもタブレット端末を貸し出し、家庭での学習に活用できるようにしていきたい。Wi-Fi環境がない家庭については、その点も配慮して対応したい。

学力調査については、国語、算数、理科、社会の学力調査である。それ以外の体育や美術、音楽といった分野に興味がある児童生徒もいるので、それらの分野の才能を伸ばしていけるような取り組みも行っていきたい。

【スポーツ振興室長】健康の取り組みについては、P 6 (1) ②で「スポーツ教室の開催などを通して、市民のライフステージごとの興味や関心、目的に応じた運動やスポーツの機会を提供し、市民の健康づくりを推進します。」と記載している。

【馬道委員】教育総務課長から説明があったように具体的な取り組みを考えているということであれば、文言的には特に問題はない。

【羽生委員】P 6 (1) ⑦に「感染症がまん延している場合などにおいても、市民がスポーツに親しめるよう、オンラインを活用したイベントなどを開催します。」と記載されている。今年度のリモートマラソンのようなことを創意工夫して実施していくという点は評価できると思う。また、P 7 (3) ②③で、喫緊の課題と

なっている部活動の地域への移行について明文化されたことは重要であると思う。細かい施策の中で十分に組み込んでもらいたい。

一方で、P 4 (2) ②で、小中学校の再編について具体的な示唆がなく、簡潔に一文でまとめられている。小中学校再編検討委員会がまとめの段階に入り、新年度からは本腰を入れて取り組んでいく時期であることを考えると物足りなさを感じる。これから学校再編を進めていく中で、市民や保護者に対して、分かりやすく具体的で明確な説明を十分に行いながら一緒に取り組んでいきたい。

P 3 (2) ③に、放課後児童クラブと放課後子ども教室の記載がある。多くの働く保護者が必要としている制度だと思う。現在は、担当部署が福祉分野と教育分野に分かれているが、機構改革により、どちらも子ども分野として教育委員会の所管になる。現在は、名称や受け入れ条件が異なっているが、保護者のニーズを的確に捉えて間口の広い制度にしてもらいたい。

P 4 (2) ①に「未就学時から高等学校までをつなぐ教育の仕組みづくりに取り組めます。」とある。とても重要なことだと思うが、具体的にどのような仕組みをつくるのかイメージが湧かないので教えてもらいたい。

【市長】教育に関する大綱は、ほぼ最上位の計画であり、大まかな方針を定めるものである。施策や事業の詳細な内容については、各個別の計画等で示していくことになるのでご理解願いたい。

【教育長】未就学時から高等学校までをつなぐ教育の仕組みづくりについては、P 1 の大綱の趣旨にもあるように「大野市の特色を十分に生かし、大野らしさが生きる教育を進めます。」が一番のキーワードだと考えている。未就学時から高等学校までの18年間を見通したときに、しっかりネットワークを作って機動的に見られる適切な規模だということが大野市の特色である。これまでは福祉分野と教育分野に分かれており、連携はしていたが十分でなかった部分がある。そこをしっかりとつないでいくということである。

【松谷委員】未就学時から高等学校までの18年教育の中で、大野市の規模だからできる教育環境づくりを進めていけるとよいと思う。例えば、保育所や学校の癒しの時間という給食や休み時間だと思うが、その時間に共通の可愛い曲を流すとか、共通のものが18年間続いていくことで、大野の良さを共通認識できるとよいと思う。P 4 (1) ③にICT機器の記載があり、⑧に読書の記載がある。例えば、タブレット端末に大野市の推薦図書データをを入れて、学校でも家庭でもその図書を広めていくという取り組みができるとよいと思う。

【市長】1人1台のタブレット体制を作っていく中での新たなアイデアをいただいた。行政のデジタル化は、新年度からは必ず進めていかなければならないものになると思う。

最後にP 10の「SDGsへの貢献」についてであるが、私たちだけでSDGsへの貢献を目指すのは難しいと思うので、「17の持続可能な開発目標（ゴール）

のうち、特に次のゴールへの貢献を目指して、大綱に掲げる施策とSDGsの目標を関連付けて施策を展開します。」と文章の構成を入れ替えることを提案したい。

大綱については、ここにある六つの目標が大目標であるが、実際に施策を進めるに当たっては、先ほどの意見にもあった「デジタル化」と「教育」や、「デジタル化」と「図書館」のように、クロスして考えて二つ、三つのゴールが関わってくる。そうした意味では17の全てのゴールを目指して頑張っていくことになる。

【松田委員】人口減少は全国的な傾向だが、大野市から若い人が出ていくのは非常に寂しい。未就学児から小学校低学年の児童がいる保護者が安心して子育てできる環境をつくるには、保育士や教員の存在が大きいと思う。保育士や教員の環境を整備することで、保護者が安心して子育てできる環境づくりにもつながると思うので、そのような施策を進めていけるとよいと思う。

P9(1)①に「新たな文化会館の整備について検討を進めます。」とあるが、検討という言葉は必要なのかと思う。文化会館の整備が白紙になったように受け取る人もいると思う。

【市長】子育て世代への支援、それを支える環境づくりについては、大野市が優先すべき課題だと考えている。「大野ですくすく子育て応援パッケージ」もそのような思いで作成した。今後もさらに充実させていきたいと考えている。

【政策局長】第六次大野市総合計画の策定に当たっては、多くの方に関わっていただき、時間をかけて議論を重ねてきた。文化会館については、現段階では進捗できない状態にあるので、その中で記載できるのはこのような形までという結論になった。白紙になったということではないので、しかるべき状況になったときには、再度検討を進めていきたいと思う。総合計画や教育に関する大綱の中で、さらに進めた書きぶりをするには、議会等々との関係もあるので、ここで留めるしかないということであったのでご理解願いたい。

【市長】今日いただいたご意見を十分に吟味し、第六次大野市総合計画との関係もあるので、修正できる点は修正して最終版にしていきたいと思う。全体的な内容については概ねご了解いただいたと思うので、文章の修正は事務局にお任せいただいてよろしいか。

——<異議なし>——

【市長】最終形に向かって努力するので引き続きご協力をお願いします。教育に関する大綱(案)については、以上とする。

「(2)その他」について、何かあればお願いします。

【松田委員】1月25日の新聞に、災害警戒区域に含まれる保育所が6箇所あるという記事が出ていた。対応については改めて考えていかなければいけないと思うが、どの保育所が警戒区域に含まれているのかを教えてください。



【福祉子ども課長】 1月25日の新聞に、災害警戒区域に立地している保育所、認定子ども園の各市町一覧表が掲載された。大野市では、15施設ある中の6施設が警戒区域に入っている。まず、和泉保育園が土砂災害警戒区域に、いとよ保育園、誓念寺子ども園、誓念寺中野子ども園、いなやま子ども園、上庄子ども園が浸水想定区域に含まれている。

【市長】今日の時点では施設の確認のみとなるが、別途、機会があれば、その趣旨と内容について協議していきたい。

その他については以上とする。

#### 4 閉会

【市長】活発な協議ができたことに感謝申し上げます。今後とも市と教育委員会が一体となって大野市の教育行政が着実によりよく進んでいくようにご協力をお願い申し上げます、第5回大野市総合教育会議を閉会する。

午後5時5分終了